

# 4-4

プリーズ コール マイ ネーム

安心できる生活の提供とは？

認知症ケア

信頼関係の構築

特別養護老人ホーム 愛生苑

|                    |                                    |
|--------------------|------------------------------------|
| 発表者：介護職員 伊藤 敏      | 共同研究者：介護職員 伊藤 良太                   |
| 所在地：東京都多摩市和田1547番地 | 共同研究者：介護職員 高橋 智彦                   |
| TEL：042-376-3555   | E-mail：aisei@crccus.ocn.ne.jp      |
| FAX：042-376-3530   | URL：http://www2.ocn.ne.jp./tokyuu/ |

|                            |                                                                                |
|----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 今回の発表の施設<br>またはサービスの<br>概要 | 愛生苑は平成9年に解説し80名の在苑者が生活されています。「優しさと温かさ」の理念のもとに、全職員が一人一人に最良の生活空間を提供することを目指しています。 |
|----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|

## 〈取り組んだ課題〉

一緒に生活するうえで互いの名前を知っていることは当然なことだが、それが当然のようにできていないということに疑問を感じていた。  
生活の場で信頼できる職員がいることでストレスの溜まらない日常を支援できるのではと考えた。  
ある利用者に名前を覚えていただき信頼関係を深めるにつれ新たな一面をみることができた。

## 〈具体的な取り組み〉

- 対象利用者の選択理由として、各担当利用者より変化の見られそうな方を選び実施。
- ・各階にアンケート実施を配布。
  - ・対象利用者の選択。
  - ・担当職員を決定。
  - ・自己紹介開始。
  - ・各対象利用者との関わり時間をふやす。
  - ・対象利用者職員の名前を記憶。
  - ・対象利用者職員の名前と顔を記憶。
  - ・対象利用者の変化を観察し感じ取る。
  - ・対象利用者の変化を共有し理解する。

## 〈活動の成果と評価〉

- ・優しい表情をみせてくれるようになった。
- ・職員の顔と名前を覚えてくれた。
- ・まったく覚えてもらえなかった。
- ・利用者によっては数日関わらなかったことで忘れてしまうこともあった。
- ・職員との関わり持つことを楽しみにするようになった。
- ・今まで聞いたことのない話を自ら話してくださった。
- ・忘れたことを覚えている人には忘れていることを認識させてしまった。
- ・結果として個人差は出てしまったが顔と名前を覚えて頂く以前に関わりを増やすことで著しい変化があった。
- ・業務の中に楽しみと職員間の共感が高まった。
- ・アンケート結果によって各介護職員の意識や考え方を把握出来た。

## 〈今後の課題〉

今回の取り組みによって名前を覚えていただき信頼関係を築くことに成功したが今後もこの取り組みを継続していき、他にどのような変化があるか経過を追っていく。

## 【メモ欄】